

## 地域社会ゼミナール AII(その2)

### 地域社会ゼミナール AII(その2)

2単位 4年(後期)

高橋 晋一・教授 / 社会創生学科

**【授業目的】** この授業は、文化人類学・民俗学的手法を用いて卒業研究(卒業論文作成)を進めていこうと考えている学生を対象としている。受講者は卒業研究の作成を目指して、文化人類学・民俗学の領域の中から自由に各自の研究テーマを設定し、授業中の発表・討議をふまえ、その研究内容の深化をはかる。

**【授業概要】** 文化人類学ゼミナール

**【キーワード】** 文化人類学, 民俗学, 地域文化, フィールドワーク

**【先行科目】** [先行科目]

**【関連科目】** 『地域社会ゼミナール AI(その1)』(0.5), 『地域社会ゼミナール AI(その2)』(0.5), 『地域社会ゼミナール AII(その1)』(0.5)

**【履修上の注意】** 地域情報ゼミナール AI(その2)とあわせて通年で受講すること。

**【到達目標】** 文化人類学・民俗学の研究領域の中から主体的に選んだ研究テーマについて、適切な方法による調査や分析をおこない、卒業論文にまとめることができる。

**【授業計画】**

1. 4年次後期には、卒業論文作成に向け、考察を深めながら調査結果をとりまとめていく。論文全体をどのように構成するか、分析結果をいかに論理的に解釈するか、成果をどう説得力のある形で表現するかが問われる。それぞれの作業の進展に応じて数回の中間発表をおこない、その内容を教員および受講生全員で討議する。論文作成に必要な手法や具体的な執筆要領などについては、適切な時期にその都度指示する。
2. 卒業研究には、受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である。また、参加者全員が真剣な討議をおこなうことで、切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている。

**【成績評価】** 授業への取り組み状況と討議への参加意欲、報告内容の完成度をもとに評価する。

**【再試験】** 行わない。

**【教科書】** 教科書は使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

**【参考書】**

- ◇ 伊丹敬之 『創造的論文の書き方』有斐閣, 2001年
- ◇ 伊藤亜人 『文化人類学で読む日本の民俗社会』有斐閣, 2007年
- ◇ 佐藤郁哉 『フィールドワーク増訂版』新曜社, 2007年

**【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218784>

**【連絡先】**

⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜 12:00-13:00)

## 地域社会ゼミナール AII(その2)

2 units 4th-year(2nd semester)

Shinichi Takahashi · PROFESSOR / DEPARTMENT OF CIVIL AND ENVIRONMENTAL STUDIES

**Target)** この授業は、文化人類学・民俗学的手法を用いて卒業研究(卒業論文作成)を進めていこうと考えている学生を対象としている。受講者は卒業研究の作成を目指して、文化人類学・民俗学の領域の中から自由に各自の研究テーマを設定し、授業中の発表・討議をふまえ、その研究内容の深化をはかる。

**Outline)** 文化人類学ゼミナール

**Keyword)** *cultural anthropology, folklore, regional culture, fieldwork*

**Fundamental Lecture)** [先行科目]

**Relational Lecture)** “地域社会ゼミナール AI(その1)”(0.5), “地域社会ゼミナール AI(その2)”(0.5), “地域社会ゼミナール AII(その1)”(0.5)

**Notice)** 地域情報ゼミナール AI(その2)とあわせて通年で受講すること。

**Goal)** 文化人類学・民俗学の研究領域の中から主体的に選んだ研究テーマについて、適切な方法による調査や分析をおこない、卒業論文にまとめることができる。

**Schedule)**

1. 4年次後期には、卒業論文作成に向け、考察を深めながら調査結果をとりまとめていく。論文全体をどのように構成するか、分析結果をいかに論理的に解釈するか、成果をどう説得力のある形で表現するかが問われる。それぞれの作業の進展に応じて数回の中間発表をおこない、その内容を教員および受講生全員で討議する。論文作成に必要な手法や具体的な執筆要領などについては、適切な時期にその都度指示する。
2. 卒業研究には、受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である。また、参加者全員が真剣な討議をおこなうことで、切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている。

**Evaluation Criteria)** 授業への取り組み状況と討議への参加意欲、報告内容の完成度をもとに評価する。

**Re-evaluation)** 行わない。

**Textbook)** 教科書は使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

**Reference)**

- ◇ 伊丹敬之 『創造的論文の書き方』 有斐閣, 2001年
- ◇ 伊藤亜人 『文化人類学で読む日本の民俗社会』 有斐閣, 2007年
- ◇ 佐藤郁哉 『フィールドワーク増訂版』 新曜社, 2007年

**Contents)** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218784>

**Contact)**

⇒ Takahashi (+81-88-656-9486, [takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp](mailto:takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp)) **MAIL** (Office Hour: 月曜 12:00-13:00)